ＭＪＫ型マグネット点検口

取扱説明書 / 施工要領書

このたびは当社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございました。
ご使用前に、この説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
お読みになった後も、すぐに取り出せる場所に大切に保管してください。

この説明書に書かれている注意事項は、必ず守ってください。
不適切な使用により事故が発生した場合、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

もくじ

取扱説明書 …… 1
施工要領書 …… 2・3・4

株式会社 カイダー・ベースボード工業 https://www.kaider.co.jp
〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-3-4 青木ビル
TEL 03-3861-1931(代) FAX 03-3861-1930

2023年11月作成

ＭＪＫ型マグネット点検口

安全上のご注意

使用前に本書をよくお読みの上、正しく使用してください。
ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。

用語および記号、絵表記の説明

⚠警告 この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して誤った取扱いをすると、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

🚫 この記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。

❗ この記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。

ご利用にあたって

⚠注意

🚫点検時以外は点検口を外さないでください。

やむを得ず外してしまった場合は、必ず元の位置に戻してください。
マグネットで固定されるようになっています。

🚫落下防止用のヒモを外さないでください。

点検口をあけるとフタの落下を防止するためのヒモが壁面に取り付けられておりますので、ヒモ先端の金具を固定するビスを外さないでください。
フタが脱落し破損したり、ケガをする恐れがあります。

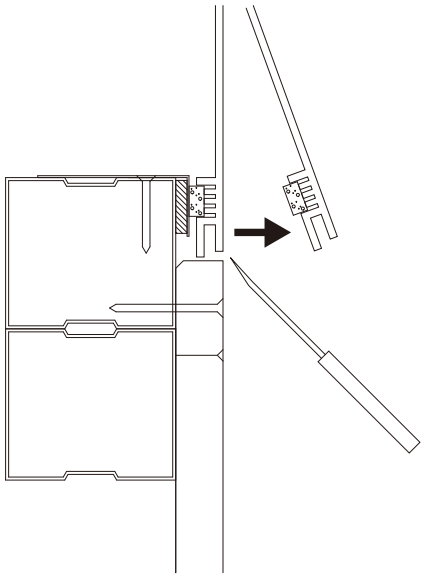
🚫フックを取り付けたり、物を掛けたりしないようにしてください。

フタが脱落し、破損したり、ケガをする恐れがあります。

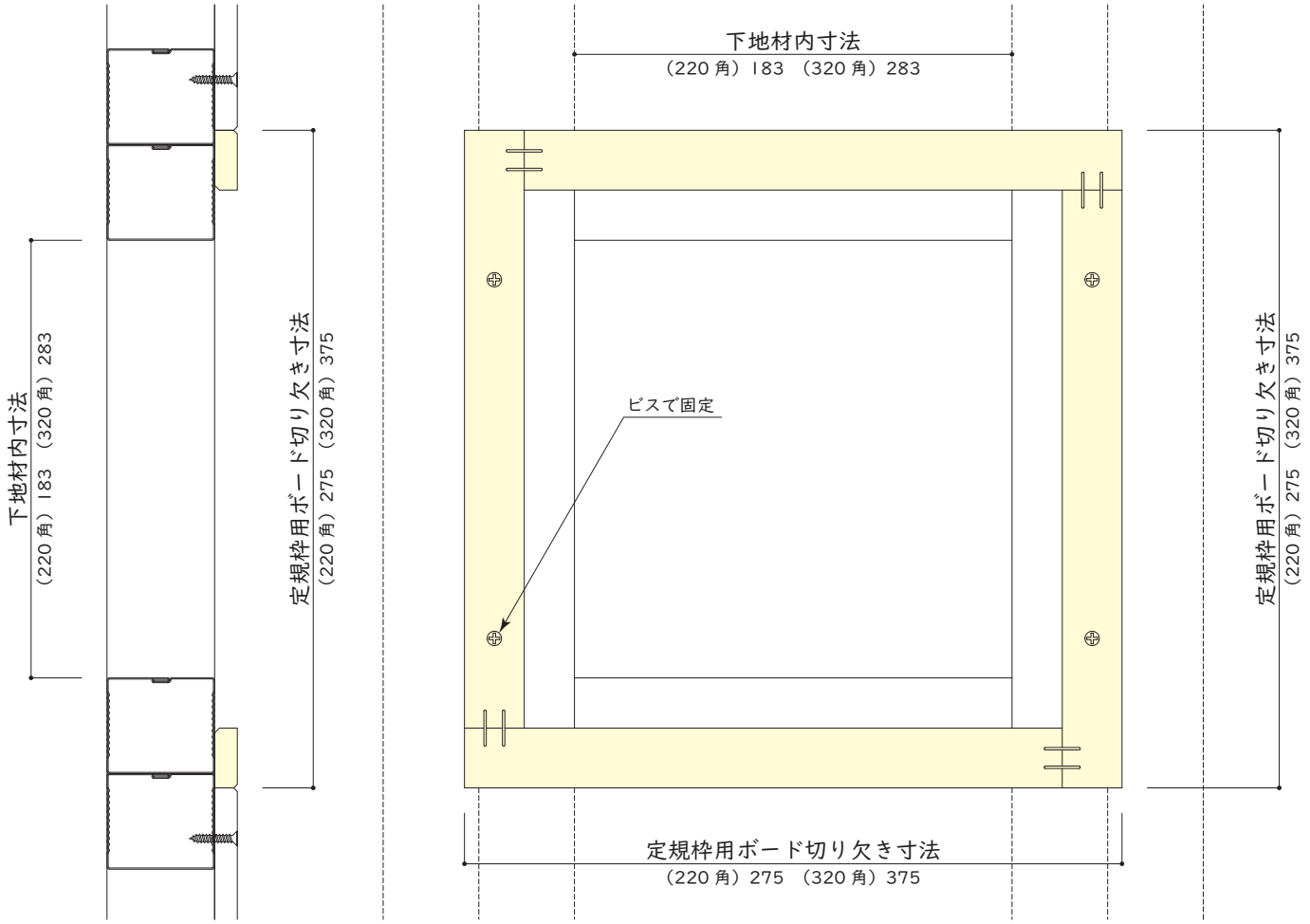
点検口の外し方

目地の隙間にコーキングで使うヘラなど、薄い板状の物を差し込んで外してください。
その際に壁面のクロスを傷つけないように注意してください。

点検口は落下防止用のヒモで固定されておりますので、床に落下はしませんが急に手を離したりすると、壁面のクロスを傷つけてしまう恐れがあります。
離す際にはゆっくりと吊り下げるようにしてください。



施工手順



1. 壁下地の配置

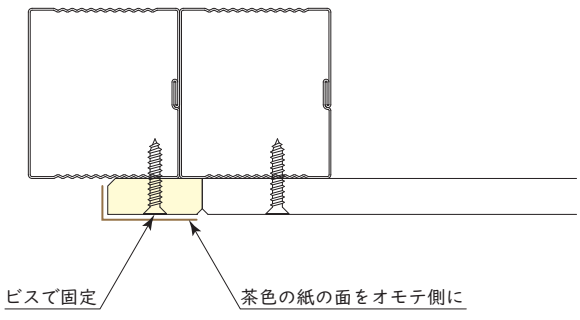
上記の図を参考に、点検口固定用の壁下地を配置してください。

2. ボードの切り欠き

定規枠のサイズに合わせて、ボードを切り欠いてください。

3. 定規枠固定

切り欠いた開口部に付属の定規枠をはめて、ビスで下地に固定してください。
（220角は左右2ヶ所の計4ヶ所、320角は左右上下2ヶ所の計8ヶ所）



★施工上の注意点

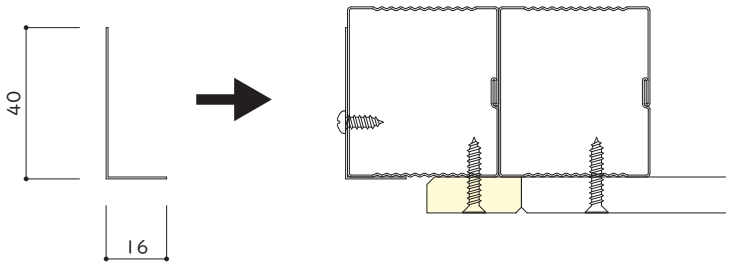
茶色の紙が貼られている面がオモテ側です。

施工手順

4.L型鋼板取り付け

付属のL型鋼板40×16を本体のマグネットが密着するように調整し、下地にビスで取り付けてください。
下地位置によりL型鋼板の勝手を変えて固定してください。

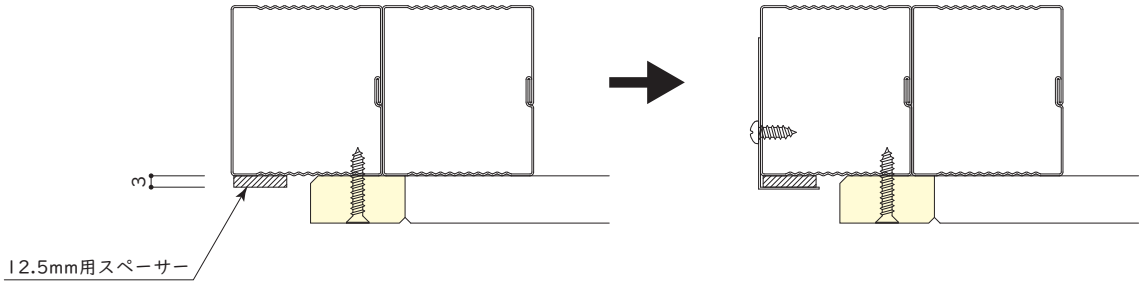
下図のように220角は左右のみ（L-180×2枚）、320角は上下（L-180×2枚）、左右（L-280×2枚）の鋼板を取り付けてください。



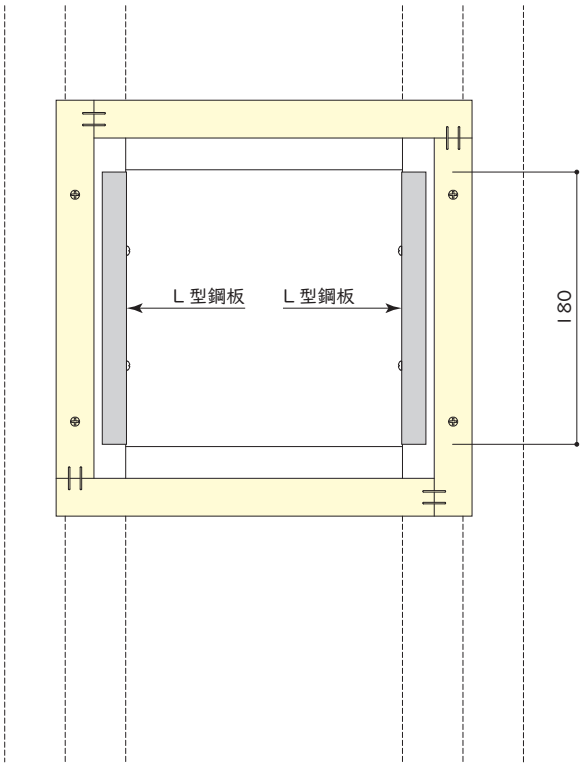
L型鋼板 40×16

★施工上の注意点

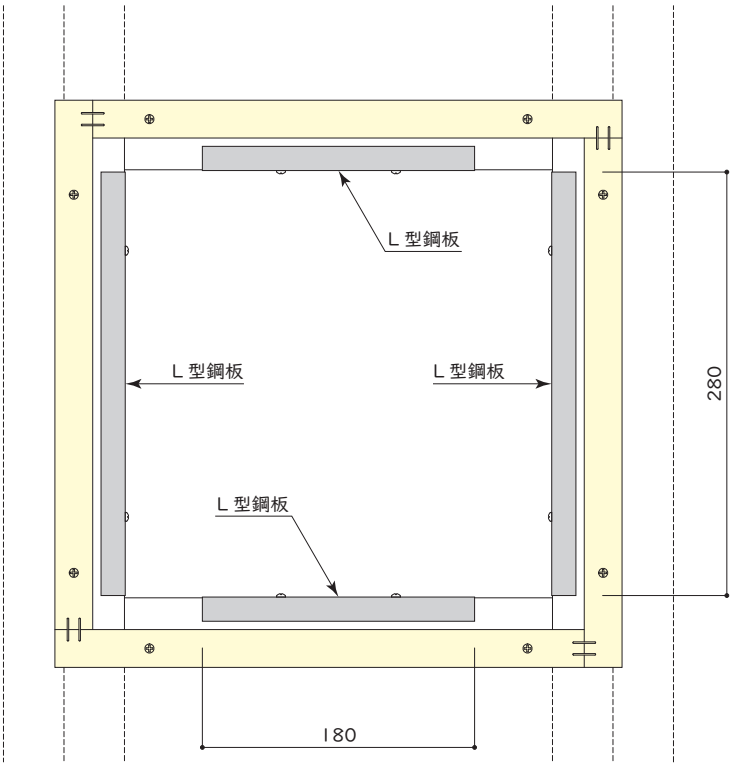
12.5mm用の点検口は、厚さ3mmのスペーサー（両面テープ付）を、下地とL型鋼板の間に入れて両面テープで固定してください。



220角の場合



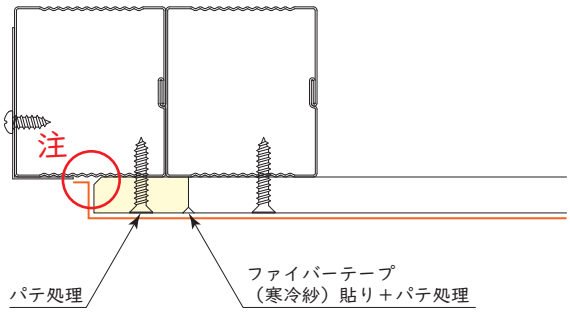
320角の場合



施工手順

5. 定規枠（壁面）のクロス貼り

壁面のボードと定規枠の突きつけ部にファイバーテープ（寒冷紗）を貼り固定したビス部分も合わせてパテ処理し、仕上げのクロスに影響が出ないようにしてください。

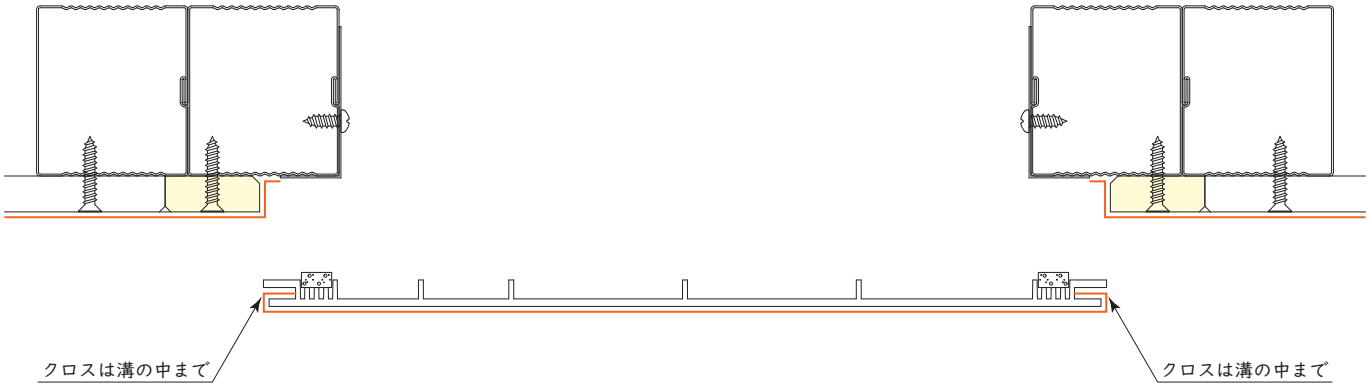


★施工上の注意点

定規枠にクロスを貼る際は、必ず下地までクロスを貼ってください。
ただしその際にＬ型鋼板にクロスがかかってしまうと、吸着力が弱まってしまうのでＬ型鋼板にはクロスを貼らないようにしてください。

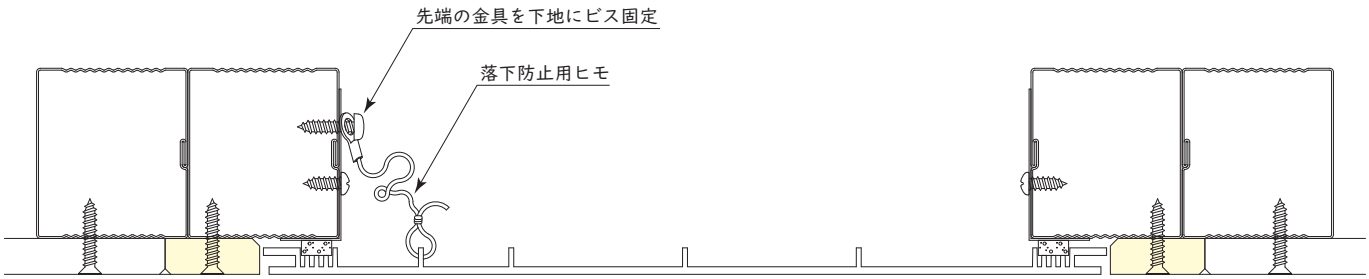
6. 点検口本体のクロス貼り

クロス接着には、プラゾールＳＳ（ヤヨイ化学工業）またはボンドＳＰ２１０Ｎ（コニシ）を使用してください。
クロスは溝の間までしっかりと巻き込んで接着してください。



7. 落下防止用ヒモの固定

点検口本体のヒモの先端に金具が取り付けてありますので、壁下地にビスで固定してください。



8. 施工完了

点検口本体のガタつきや、マグネットの吸着力に不備がないかを確認し、施工完了です。